

# 高品質な「シャインマスカット」の安定生産技術の普及による産地確立とぶどう産地の拡大

県北農林事務所伊達農業普及所

草創期（第Ⅰ期） 平成26～31年度

成長期（第Ⅱ期）

## 背景・ねらい

「シャインマスカット」の先行導入者を対象とした、高品質果実の安定生産技術の普及<sup>1</sup>と面積拡大を目指した栽培技術支援<sup>2</sup>

- 伊達地方は「巨峰」「高尾」「ピオーネ」の産地だが、「シャインマスカット」の面積が他県で急増（平成25年の全国の栽培面積：570ha、管内の栽培面積：2ha）
- 県農業総合センター果樹研究所で「シャインマスカット」は「有望」と評価
- 管内農協と普及所で「シャインマスカット」栽培の先進地（山形県）を視察（平成26年3月、5月）し、生産拡大への機運が高まった

### ぶどう「シャインマスカット」の概要

- 開発者：農研機構
- 開発年（育種完了年）：平成18年に品種登録
- 2倍体の黄緑色の欧州系品種
- 果肉は崩壊性でマスカット香がある。糖度は20度前後となり、食味が優れる。
- ジベレリン処理により無核化が可能で、果皮ごと食べられる。

## 活動内容

### 1 高品質果実の安定生産技術の普及

- 農協部会活動支援（先進地視察、出荷規格や出荷前糖度測定の助言）
- JA「シャインマスカット委員会」設立及び活動支援（栽培管理指導会、長期保存技術の情報収集等）

### 2 面積拡大を目指した栽培技術支援

- 高接ぎによる自家増殖の技術指導（当時）
- 果樹経営支援対策事業（新・改植）の推進



図1 栽培管理指導会

草創期（第Ⅰ期）

成長期（第Ⅱ期） 令和2～6年度

活動成果

## 背景・ねらい

既存ぶどう生産者やぶどう栽培未経験者を対象とした、高品質果実の安定生産と早期成園化を目指した技術の普及による産地の拡大<sup>1</sup>と、「シャインマスカット」未開花症に対する実態調査と対策指導<sup>2</sup>

- 「シャインマスカット」の市場規模が拡大し、既存のぶどう生産者やぶどう栽培未経験者が「シャインマスカット」栽培に取り組む事例が増えてきた
- 「シャインマスカット」の未開花症が全国的な問題になった（令和4年度～）

## 活動内容

### 1 産地の拡大

- 「伊達地方版シャインマスカット栽培マニュアル」（JAとの共著）の作成と栽培技術の普及
- 早期成園化できる技術として根圏制御栽培（ぶどう）の実証と現地検討会の開催
- 管内農協と栽培技術向上に向けた指導の連携と、産地分析の実施による産地課題共有
- 就農相談対応、新規就農者指導

### 2 未開花症対策

- 実態調査、対策指導等

未開花症は摘穂や花穂整形の徹底で被害を最小限に抑えている

## 活動成果

- 「シャインマスカット」出荷額が67倍、単価が2倍に向上！（平成25年～令和6年）
- ぶどうの総出荷額が1.9倍に向上！（平成25年～令和6年）
- 生食用ぶどうを基幹品目とした新規就農：5件（令和2～6年度）
- 根圏制御栽培では実証2年目で慣行の6年目並の収量を達成  
→3名の新たな取組みにつながった！

## 波及効果

### 観光業・飲食業への波及

- 伊達産「シャインマスカット」を扱ったスイーツが道の駅併設カフェや多数の洋菓子店で提供

### 県民の生涯学習への波及

- 「シャインマスカット」を使用したお菓子作りセミナーが開催され好評

## 今後の活動・方向性

### 現状

- 全国的な「シャインマスカット」増産で産地間競争が激化し、更なる品質向上が求められる
- 気候変動等で管理作業時期の早期化、以前問題でなかった病害虫の被害増加
- 産地の高齢化に伴う労働力の減少

### 方向性

「シャインマスカット」の更なる高品質化とぶどう生産量の維持・拡大

### 活動内容

- 「シャインマスカット」高品質化：栽培マニュアル改訂、カスリ症対策技術の普及等
- ぶどう生産量維持・拡大：ロボット草刈機の検証、指導会等による適期管理・適期防除の指導



図2 伊達地方版シャインマスカット栽培マニュアル



図3 根圏制御栽培実証現地検討会



図4 未開花症



図5 摘粒指導会

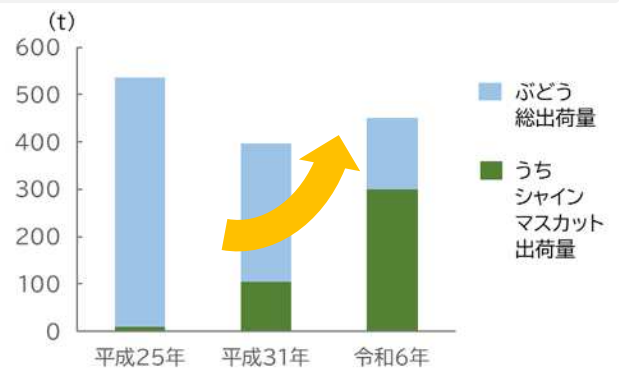


図6 ぶどう出荷量

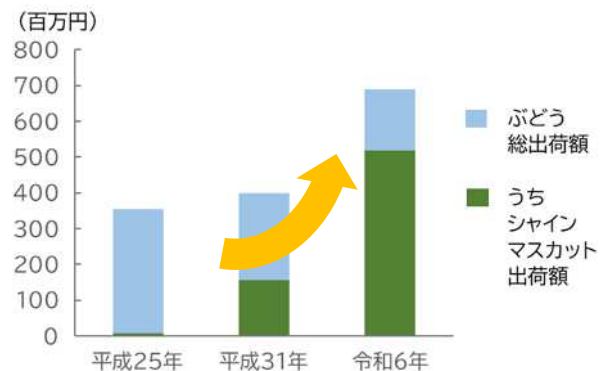


図7 ぶどう出荷額



図8 ロボット草刈機の検証